

□第7期 第4回 外国人市民会議のまとめ

〔日時〕平成30年(2018年)10月10日(水曜) 午後7時から9時

〔会場〕市役所 第二庁舎 3階 大会議室

〔出席者〕

委員:

・片山 フィオナ

・畢 徹

・陳 琛

・劉 国相

・ELMTOUNI ACHRAF

・LEVEQUE MARC

事務局: 人権政策課

〔傍聴者数〕2人

〔案件〕

1. 前回(第3回) 会議の確認

→ 事務局より 資料1 「第7期 第3回 外国人市民会議のまとめ」について説明

2. 地震や台風を経験して気づいたこと について

→ 事務局より 資料2について説明

→ 事前に送付したふせんを使ったワークショップ

《 意見 》

○地震の時困ったこと

・車の中にいた時に地震が来た。地震に慣れていないから、揺れで地震が来たと判断するまで時間がかかった。

・子どもが学校でもらってきた緊急時の連絡カードがあったが、もってから時間がたっており、どこに置いたかわからなくなった。

・地震が起こったとき、子どもを迎えに行ったほうがいいのか、学校に待機していた方が安全なのかかわからない。学校のサーバーに問題が生じたらしく、学校からの緊急時の連絡がすぐに来なかった。

- ・留学生がどこに住んだら安全か心配をしていた。
- ・インターネットで避難所を調べたが、家から遠いところが避難所として指定された。生活ガイドマップで調べたら違うところが避難所として書いてあった。何が正しい情報なのかわからない。
- ・地震による停電でマンションで水が出なくなった。トイレ等も厳しい。
- ・保育園が休園していた。何が原因で保育園などを休園しているのか詳しく知りたい。子どもを預けられるところがなくなって困ったので、他の保育園や学校に預けるなどの対応が出来たらよいと思う。

○地震の時必要だと思ったこと・もの・情報

- ・家族と避難する場所や行き方について話をする。
- ・保存食や飲み物を数日分準備する。
- ・助けの呼び方や、災害用伝言板の場所を調べておく。
- ・地震はいつくるかわからないから、いつ来てもいいように準備をしておく。
- ・防災マップは、市民全般に配れているのか。防災マップの多言語版はあるのか。
→事務局より 多言語の防災マップはないが、生活ガイドマップに情報を載せている。
- ・大阪の国際交流団体のホームページで、防災のための情報が多言語で載っている。
- ・地震の時はいつも1階が壊れるから、2階から上の方が安全。
- ・地震のあと、どの道路が封鎖されているか知りたい。
- ・保育園の屋根がパネルになっているのが危ない。地震があると簡単に落ちてしまう。
- ・マンションの保険に入っていて助かった。その保険は家の財産も補ってくれるものだった。
保険に入れることや入ることの重要性、その保険がどこまで使えるのかを知っておくべきだ。
- ・今回の地震は外国人にとって意識を高めるいい機会になったと思う。

○台風の時困ったこと、

- ・マンションの外についているエアコンの室外機が落ちてきそうで危ない。

- ・台風で4時間ぐらい電気が消えた。
→ 事務局より 台風の影響による停電が復旧するまで、長いところで3日かかった。
- ・台風によって発生したごみの処理の仕方が分からなかったのも、自分で調べた。
- ・家の前の道路がひび割れて水が出ていたが、連絡したらすぐに対応してくれた。日本の復興する速さは素晴らしいと思う。
- ・スーパーなどで商品が買い占められて、全部なくなっているのが困った。

○台風の時、必要だと思ったこと・もの・情報

- ・選挙の時などに使っているスピーカーのついた車で市内を回って停電の情報を伝えてほしい。
- ・台風の風で飛んだものが、他人の家に被害を与えてしまったらどうなるのか。
→ 事務局より 災害による被害ならば家の持ち主に責任はないが、手入れをしていなかったから被害が出た場合は責任はある。
- ・日本に来たばかりの人は、言語ごとにコミュニティがあることも知らない人が多いので困ると思う。初めて日本へ来る人への支援や対策が必要だと思う。

○これから自分で準備すること

- ・自分の身を守ろうとする意識が必要、インターネットにも多言語で情報はあるので、外国人が自分から学習する必要がある。
- ・阪神淡路大震災の時、被害者の90%は家の中で亡くなり、その80%は家具が倒れてきたり下敷きになったらしい。倒れてこないように固定するなど、家具のレイアウトを考える必要がある。
- ・携帯電話は常に使えるように電源を確保するべき。
- ・災害用のトイレの作り方などを知っておくべき。
- ・いつでも逃げられるように防災グッズを車に持っている。

○これから市や国際交流センター、地域にやってほしいこと

• 生活ガイドマップを何年かに1回送ってほしい。

• 定期的に防災意識を高める必要がある、国際交流センターが活躍できるのではないかな。

• 水が出なくなったとき、市役所は米や水を配ったりできないのかな。

→事務局より 今回の災害で豊中市は断水していない。マンションのポンプの横に蛇口があつてそこから水を汲みとることが出来る。できないマンションには、豊中市が水を蓄えたタンク車を設置した。

• 緑地公園の木を取り除くボランティアなどはないのかな。

→事務局より 緑地公園は大阪府の公園なので、大阪府に問合せみるといいと思う。豊中市としてボランティアは行っていない。

• 国際交流センターで災害時に言語ごとに、正しい情報を発信できる人を育てたらいいと思う。

同じ国のコミュニティであることで安心できる。同じ国の人同士で共感できる。

• 災害でけがした時の練習などはできないかな。

→消防が救急の講習を定期的に開いていると思う。こどもは学校などでもAEDの使い方の講習を受けるはず。

3. その他

• 第5回外国人市民会議は2月ごろを予定しており、それが最後の会議になる。

• 今回までの会議の内容をまとめた「第7期外国人市民会議報告書(案)」を作って委員の皆さんに送るので、それを見て、直してほしいところや書き足したいことを次の会議までに考えてきてもらいたい。